



## カブトガニの目はどこにあるの

### 生きて化石といわれるカブトガニ

カブトガニは、3億年ぐらい前に地球上に現れてから、ほとんど形が変わらないまま今も生きているため、生きて化石といわれています。いちばん近い仲間は、およそ5億年前ごろ栄えて、絶滅してしまった三葉虫、今生きているものでは、クモなどです。

### 目はこうらの上にある

カブトガニの体は、かたいこうらでおおわれていて、こうらの前方の真ん中に目が二つ、両わきに複眼(こん虫の目のように、いくつも小さい目が集まって一つの目のようになっているもの)が1つずつあります。どれも、あまりよく見える目ではないようです。

カブトガニの口やきゅう覚器、えら、こう門などは、みな腹側についています。えさは、ゴカイや、小さい二枚貝、海そうなどで、きゅう覚器を使ってにおいで探します。

### 大人になると、オスとメスはつながる

カブトガニは、何回もだっ皮しては大きくなり、13~14才でおとなの体になって、オス・メスのちがいははっきりわかるようになります。大人になったカブトガニのメスは、必ずオスよりひとまわり大きい体になります。そして、その大きなメスの体の後ろに、オスがぴったり重なってくっつき、全体で一ぴきの体ようになってはなれなくなります。オスの体はメスのこうらにがっちり重なるつくりになっています。(監修・安部 義孝)

